



機那サフラン酒本舗は  
パワースポットです

MfG\_J\_spiritual\_places\_in\_Kina-Saffron\_shu brewery

サフラン酒の屋敷には、いろいろな見方、受け取り方が  
あります。  
金持ちの、キンピカ趣味と云う人もいます。

でも、それだと、1／10も楽しめないように思います。  
本当は凄い仕掛けなんではないか、という気持ちで  
見ると、100倍、楽しめます。

とんでもない解釈をするかも知れませんが、今日は、  
パワースポットという見方で、お話します。

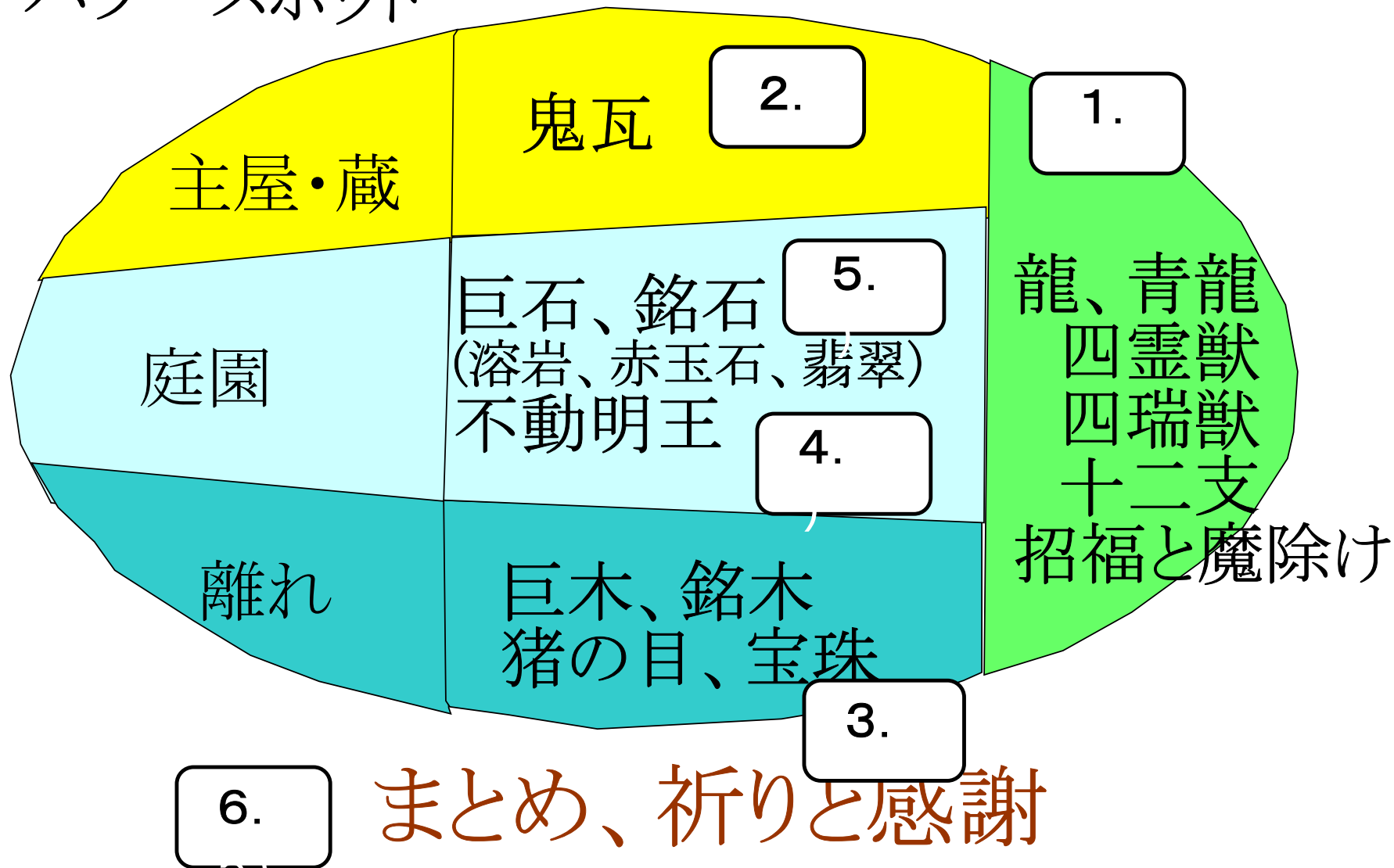
## パワースポットの源は

- 自然のエネルギー、生命力への畏敬
- 人間の大きいなる営みへの敬意
- 神仏への祈り、報恩感謝
- 魔除けへの祈り、感謝

## 機那サフラン酒で、それは具体的には

- 根本は、生涯の仕事と定めた薬種への誓い
- ～薬師如来の守護神、一対の龍への祈り
- ありとあらゆる守護神、招福と魔除け
- 祈りと感謝

# 際限なく埋め尽くす、機那サフラン酒の パワースポット



# 1. 龍、鯉を探すと・・・

龍が38 (藤森先生は数えられた)

鬼瓦のある建物8棟として  $8*2*2 = 32$

その他、池の噴水、離れの屏風・・・

鯉が10 衣装蔵に二匹、コレクションの鯉仙人、

その他、池に大きな鯉・・・

Facility	龍	鯉	巨石材木	不動明王
鰻絵蔵の軒下	○			
鰻絵蔵の東面の鬼瓦	○			
衣装蔵	○	○		
庭園	○	(○)	○	○
接待用別邸(離れ)	○		○	
鰻絵蔵コレクション室	○	○		○

## 十二支、四霊獣の見直し

※薬師如来	両脇に日光と月光の2菩薩、 周圀に十二神将を従える。
※十二神将	薬師如来の世界とそれを信仰する 人々を守る大将で、十二の方角を 守っていることから、干支(十二支)の 守護神としても信仰。
※四霊獣	四方の守護神

## 仏法

※守護神で 暗喩	龍、不動明王、宝珠
-------------	-----------

ポイントは二男の仁太郎さんの青年期の身の上  
5才で摂田屋にある母の実家・薬屋の養子となり、  
17才で千手の薬種問屋商に奉公に出たこと。  
21才でサフラン酒の製造を開始し、  
28才で養子縁組を解消し、実家に復帰。  
31才のとき、定明から摂田屋に移転、本格的に事業開始。

元々、家業の薬酒造りを継ぐことになっていたのでしょうか。  
仁太郎も、幼い時期に、生涯の仕事薬種、薬酒に関わる  
覚悟を決め、薬師如来を頼ることになったのでは。

その薬師如来を守護する龍を、頼みとすることになったと  
考えると…。



薬師如来と宝珠



登り龍と下り龍を随える薬師如来



登り龍は、浄土にある悟り、幸せの宝珠を求め、  
懸命に修行する菩薩の姿、

下り龍は、求めていた宝珠を得て、  
地上のありとあらゆる生命を救済するため、  
地上に戻る菩薩の姿。

ここでは、龍も、怖いもの、恐れの対象から、  
守護神へと変化しています。



村松・医王山円融寺の本堂欄間  
龍の彫刻（江戸末期の作）

仁太郎は伊吉を連れ、魚沼・西福寺の「道元禅師  
猛虎調伏の図」を再三訪れたそうです。

蟠谷大龍和尚は、この雪深く貧しい農村地域の人々の  
心の拠り所となるお堂を建てたいという前住職の志を引  
き継ぎ、この開山堂にも、人々の心を豊かで幸せに導い  
て下さるお釈迦様や道元様の教えの世界を再現したい  
と考えたと云います。

サフラン酒の鰻絵や龍のシンボルも同様で、  
この「人々の心の拠り所」という見方も、重要な  
キーポイントであると思っています。

## 2. 次は、魔除けの鬼瓦

起源はメドゥーサ（中東、ギリシャ文明）  
ギリシャ・ローマ文明から中東の王国に  
引き継がれ、さらにインド、中国を経て  
日本へ辿りつき、それが鬼瓦になった。  
（日本）

鬼瓦に巻き付く龍も、登場

## 龍、魔除けの見直し

※メドゥーサ	ギリシャ、中東の神話に起源を持つ、邪気をはらい侵入者を防ぐ怪物。
※ナーガ	インド神話に起源を持つ、蛇の精霊。コブラのいない中国では漢訳経典において「竜」と翻訳。
※みずち(蛟)	日本の神話・伝説の水神。
※龍	恐れの対象から守護神へと変容
※猪の目	恐ろしいものから「魔除け」に変容

メドゥーサ (Medusa)

邪気をはらい侵入者を防ぐ怪物



570 B.C.

蛇を巻いた髪、大きな耳.

# メドゥーサ

紀元三世紀ころに滅んだ隊商都市パルミラの  
地下墓の入り口に、飾りとして存在するとのこと



紀元前1世紀～3世紀のパルミラ

「パルミラ遺跡 夜、朝」 平山郁夫さんの大作

## ナーガ

インド神話に起源を持つ、蛇の精霊、蛇神のこと。

元来コブラを神格化した蛇神であったはずだが、コブラの存在しない中国では漢訳経典において「竜」と翻訳され、中国に元来からあった龍信仰と習合し、日本にもその形式で伝わっている。

## みずち(蛟)

日本の神話・伝説で水と関係があるとみなされる。

竜類か伝説上の蛇類または水神。「みつち」



日本で、恐ろしいものから、  
魔除け、守護神へと役目を  
変えた



鬼瓦に巻き付く龍

清水寺三重塔 創建は 平安初期(841)

龍は雨を呼び 火を防ぐ守護神  
鬼瓦の厄除けと合体したと  
みることができる



サフラン酒  
主屋の鬼瓦



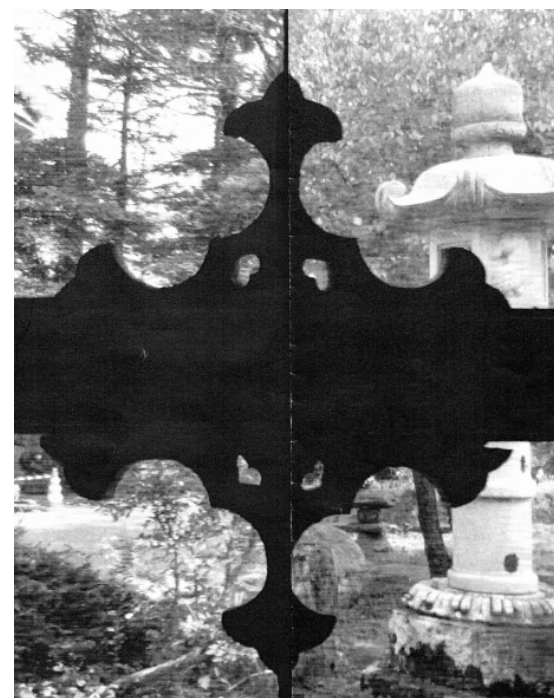
### 3. 猪の目

農耕の始まった縄文時代、人々が栽培した食物を食い荒らすイノシシを恐れた。

猪の目も、恐ろしいものから「魔除け」に変容したと考えられる。



サフラン酒の離れ、猪の目



(編集しています)

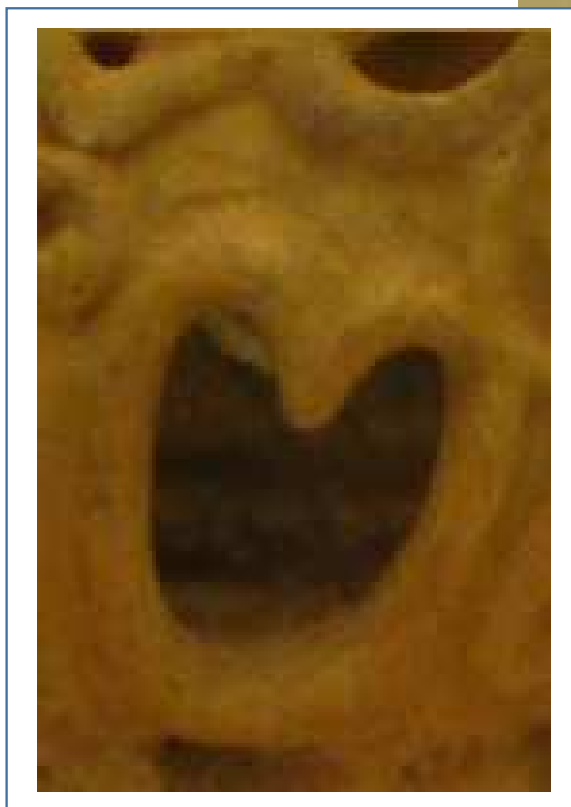
猪の目は、日本の古くより、  
魔除けのシンボルに使われてきた。

近世では、武士の刀の鰐、社寺の棟木  
の端や鈴に見られる。

更に、縄文土器にも、見ることができる。

(蛇、カエルは再生のシンボルであり、  
イノシシは魔除けのシンボル)

火焰型土器  
の猪の目



この猪の目、刀の鍔や  
神社仏閣の鈴に見る  
ことができ、古くから  
魔除けのシンボル  
なのですが、  
実は、縄文土器にも  
あるのです。  
縄文の昔から、  
日本人の心にある  
魔除けなのです。



猪の目は、主屋の鬼瓦  
の下の「懸魚」(げぎょ)  
にも、見られます。

「懸魚」とは、神社やお寺の  
屋根が、切妻造りか入母屋  
造りのとき、その破風板部分  
に取り付けられる妻飾りのこと。  
「懸魚」とは、文字通り「魚を  
懸ける」ことで、水と関わりの  
深い魚を屋根に懸けることで  
「水をかける、火防」の意味に  
通じているそうです。





4. 不動明王

5. 巨石、銘石

皆さん、ご存知のことですので、  
今日は省略します。

## 6. まとめ ～ 祈りと感謝

仁太郎さんにとって、  
信仰とは何であったか。

仏法とは何であったか。

おびただしい数の龍の意味  
龍、鯉、不動明王、…

単純化すると...

薬種・薬師如来

十二神将

登り龍と下り龍

四方・八方の守護神

双龍

衆生の救済

四霊獣

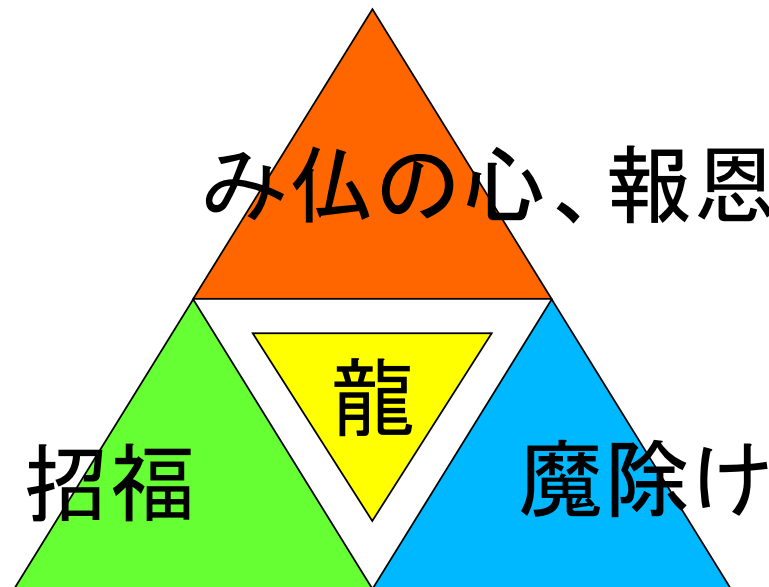
十二支

龍

招福・魔除け

人々の安寧、五穀豊穰、商売繁盛、子孫繁栄への祈り

守護神は、招福というより、魔除け。  
～ サフラン酒のいろいろな装飾は、  
下図に集約できるような気がしています。



それが、仁太郎ワールド

## 最後に

仁太郎さんは、東洋思想、仏教思想に造詣の深い、希有の思想家だったと思っています。一方、茶道もたしなむ趣味人でもありました。

鏝絵蔵の東面の絵柄の配置と、衣装蔵の鏝絵との関連、これしか、あり得ない「絶妙の配置」の話もいつか。

聞いていただき、ありがとうございました。